

在宅看護方法論 Home Care Nursing

担当教員	林一美、桜井志保美、子吉知恵美				
実務経験					
開講年次	2年次後期	単位数	1	授業形態	講義
必修・選択	必修	時間数	15		
Keywords	在宅療養者とその家族の生活の理解、在宅での基本的生活援助技術				
学習目的・目標	<p>【目的】 在宅看護の対象である在宅療養者・要介護者とその家族への理解を深めるとともに、在宅看護で必要とされる基本的生活援助技術について講義・演習を通して修得できる。</p> <p>【目標】 1.課題を主体的に取り組むことにより、在宅看護の視点を理解する。 2.在宅ケアに関する基本的概念や法制度を理解する。 3.在宅看護で必要とされる基本的生活援助技術を修得する。</p>				
授業計画・内容					
回	内容				
1	<p>在宅療養者とその家族の生活 ・在宅療養者とその家族の生活状況、家族による介護状況、援助者による援助の状況について理解を深める</p>				
2	<p>在宅療養者の生活を支える基本的な技術 ・在宅における面接技術、在宅における観察・アセスメント ・コミュニケーション、環境整備、生活リハビリテーション</p>				
3	<p>在宅看護にかかわる法令・制度 ・介護保険制度 ・ケアマネジメントの定義、在宅ケアシステム、ケアマネジメントの構成要素、社会資源について、ケアマネジメントの展開過程</p>				
4	<p>訪問看護の実際 ・訪問看護制度 ・訪問看護の展開 ・訪問看護サービスの提供</p>				
5-8	<p>在宅看護で必要とされる基本的生活援助技術（演習） ・食と排泄 ・活動と休息 ・清潔と衣生活</p>				
教科書	<p>河原加代子他：系統看護学講座 在宅看護論、医学書院 鈴木和子・渡辺裕子著：家族看護学－理論と実践－、第4版、日本看護協会出版会、 国民衛生の動向、最新版、厚生統計協会</p>				
参考図書等	訪問看護業務の手引、最新版、社会保険研究所				
評価指標	<p>1. 課題およびレポート25%</p> <p>2. 定期試験75%</p>				
関連科目	在宅看護学概論・家族看護論・在宅看護方法論演習・在宅看護学実習				
教員から学生へのメッセージ	<p>在宅看護方法論は、在宅看護関連科目、既習した看護の基本や看護援助の方法を踏まえて、在宅で応用してゆく看護方法を学びます。</p> <p>課題等を通じ主体的に学びながら、在宅特有の看護方法の修得に努めましょう。</p>				